

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティ掛川		
所在地	静岡県掛川市杉谷南1丁目15番地の13		
自己評価作成日	平成31年 1月 20日	評価結果市町村受理日	令和 元年 5月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.yhkikaku.jp/">http://www.yhkikaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 31年 2月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心で安全な生活が送れるよう職員一丸となり支援するように心掛けている。職員は入居者や家族との馴染みの関係を築き、大切にし入居者が安全で安心して暮らせるように支援している。又、地域の祭典・防災訓練の参加、ご近所での買い物、散歩時ご近所との挨拶、日々の会話を通じ、地域との交流の場を増やし入居者が地域の一人として生活出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域住民として安心で安全な生活を送り、地域との交流の下であきのこない暮らしを」と法人の理念は日常の行事に組み込まれて介護支援を実施している。連携のとれた職員の介護と、イベント等地域住民の継続した協力や、馴染みのかかりつけ医の受診など家族の協力もあり、日常の生活と、重度化した場合の主治医の往診など安心した生活への配慮がなされている。介護実習で以前施設に来ていた人もその後も長年にわたりボランティアの訪問があり、利用者、職員共々馴染みの継続となっている。食事や入浴、排泄など個々の思いを掴みその方に合わせた介護にあたっている。川柳や趣味等、又、生活上のこだわりのある方もその思いに副えるように話し合わせて最善の支援が実施されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝朝礼にて理念を唱和し共有している。	法人の理念は事務所の壁に掲示しており、パンフレットや運営推進会議の議事録に記載している。職員は地域の繋がり大切さを理解し理念は浸透している。施設の祭りに小学生や住民がボランティアで来てくれるようになってきて、地域との交流が少しずつ増えてきている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの時、地域の参加者に対し、ホームの前で接待を行なっている。	地域の老人会が新年会・敬老会でボランティアで来てくれ一緒に歌ったり踊りの披露してくれた。施設主催の夏祭りには以前高校生のとき実習生で来ていた地域の人が継続して応援に来ている。又、イベントの手伝いだけでなく定期的に訪れて、利用者や職員と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在は行われていません。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会で話された参考意見を サービス向上に目指している。	毎回ではないが、市健康長寿課職員・地域包括支援センター職員・民生委員・家族の参加があって2ヶ月に1度開催している。年2回のファミリーランチ会では家族や参加者と利用者が一緒に食事を楽しむ機会になっている。昨年の台風の報告から地域から意見やアドバイスを受けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の交流はあまりないが、運営推進会議に健康長寿課職員の出席をお願いしたり、各月で行われている市のサービス連合会に参加している。	管理者は市主催の施設連絡会に3ヶ月に1度参加し、介護のあとグループホームの管理者同士で情報交換など交流している。市介護相談員の来所があった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同「身体拘束」を理解し、身体拘束を行わないケアを心掛けている。どうしても行わなければ成らない場合は本人と家族に説明し理解して頂いている。	家族にやむを得ず対応することを説明し同意を得て、終末期に入っている人2名にベッド柵と家族の要望もあってセンサーマット使用の人1名がいる。職員は管理者やベテランの職員からのアドバイスを受けて拘束をしないケアに努めている。		

静岡県(グループホーム サンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での虐待は行われていないが高齢者虐待防止関連法について、学ぶ機会を持ち、より一層虐待防止について徹底して行きたい			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの事を学ぶ機会はありません。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時ご理解されるまで充分説明を行い、同意書にサイン・捺印を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階入口の「意見箱」を設置し、いつでも意見を投函できるようにしています。家族の面会時、電話等のご意見を職場会議に反映するようにしている。	利用者の意見や希望は職員間で共有し計画で反映させている。面会時や運営推進会議時のファミリーランチ会などで家族に日頃の様子を伝え意見を聞いている。聞いたことは記録し反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で職員の意見や提案を反映できるよう職員の意見を受け止めている。	職員は管理者に言いやすい関係で毎日の申し送り時や事業所外でも気になったことなど意見を管理者の携帯電話にかけて伝えている。物品の購入・勤務のシフト希望など概ね叶えられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入をしたりして職員のモチベーションが上がるよう取り組んでいる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けられる人は一部の職員ですが職員研修は毎月のユニット会議に行っています。			

静岡県(グループホーム サンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のサービス連絡会にて交流する機会がある。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が不安や、困っている事をくみ取り、安心して過ごせるように、努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望・希望等なんでも相談できる関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合い必要としている事をその都度話し合い対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることはお手伝いしてもらい、無理な時は強制しないように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間が取れるなら面会に来ていただき本人とのコミュニケーションがとれる様情報も報告出来るなどに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医院に通院したり、家族、知人の面会や電話での交流が心よく出来る様な雰囲気になっている。	家族が通院の帰りに馴染みの食堂や店で買い物をしてることがある。入居前からカラオケ教室に通っていた人がホールでカラオケを皆でして楽しむことがあったり、新聞の購読・川柳・短歌を作るなど趣味の継続の支援をしている。実習できていた学生や元職員などボランティアで定期的に来ている。		

静岡県(グループホーム サンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物をたたんだり、食事の片づけをしたり、カラオケ、散歩、ドライブ、昔話をしたり、入居者同士が関わり合えるよう支援しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の家族より相談があった時は相談に応じている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報と入居者本人がどのように暮らしたいか声かけしできる限り実現出来るようにしている。	日常の会話の中からや家族が面会に来たときに聞いたことやテレビ・新聞・チラシを見て話題がひろがって思いを知ることがある。発語が困難な人の表情や仕草を観察して、思いやして欲しいことなどを把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴・家族歴の資料を参考にしたり、入居者との会話の中から把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、入浴、外出と本人のペースに合わせた暮らしの支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングで入居者の生活状況を話しあったり、家族に相談したりしている。	担当職員は計画のサービス内容を3ヶ月ごとに評価して変化がなければ当計画を更新、状態の変化があれば医師・家族・看護師・ケアマネジャー・管理者で話し合い、計画書を作成している。ケアマネジャーは週1回現場に入って利用者の状態を把握している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を記入して職員間でケア内容を共有実践している。			

静岡県(グループホーム サンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者に目配り、気配りをしその時々状態に合わせ、外出・習字・カラオケなどをする。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる歌や踊りの観劇を通じ豊かに過ごさせて頂けるよう支援していきます。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を伺い通院できないときは職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居前からの主治医への受診や他科受診は家族対応で受診している。行けない場合や介助が必要な人には車椅子専用の事業所の車で看護師や職員がキロ50円の有料で対応している。通院が困難になっている人に主治医が月1回往診に来ている。口腔ケアに週1回訪問歯科がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の食事量や水分量に気を付けている。体調面で気が付いた事等は医師に伝えアドバイスを受け支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はかかりつけ医院・医療機関・家族と情報を頂き、退院時には医療機関より介護サマリーを依頼して安全に生活出来るように支援していきます。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する事は施設で出来る事と家族に方針を話し合い、医師・家族・介護職が終末期を支援しています。	食事がとれなくなる等重度化した時、医師・看護師・家族・ケアマネジャー・管理者で話し合っ終末期に向けた支援をしている。訪問看護師は緊急対応のマニュアルを基に終末期の支援について家族や職員に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてマニュアルを作成している。急変時・事故発生時は対応マニュアルの手順にて実施している。			

静岡県(グループホーム サンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		施設内で防災訓練を年2回実施している。	年2回の訓練は日中地震から火災発生を想定し、消防署立会いの下で行なわれている。全員外まで避難した後、消火器の使用や通報訓練等を実施している。昨年台風時地域からアドバイスを受け、備蓄品などの見直しをしている。夜間を想定した訓練の実施はしていない。	地域との協力体制に繋がる訓練や夜間を想定した訓練の実施に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		トイレ・入浴・着替えなど失礼のないようプライバシーを考慮し、入居者に圧力をかけた話し方、行動をとってはいないか、普段から気を付け穏やかに対応している。	排泄や入浴時にはタオルを使うや視線を外す、大きな声でトイレ誘導をしないなど、羞恥心に配慮した対応をしている。居室でテレビを見る人や、川柳・短歌などで過ごす人のプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		入居者の現在の生活の物足りなさを少しでも埋められるよう入居者から主張してもらえるような話しかけて希望に応えられるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		マニュアルに合わせるだけでなく、時間の許す限り入居者1人1人の満足、ゆとりを考えた誘導、介助、話しかけを工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		季節感を考え、着やすさ、洋服の組み合わせ方など喜んで頂けるように清潔で気持ち良い状態を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		入居者の健康を考えて盛り付けを工夫したり、満足できる量をゆっくり気分よく食べられるよう支援していきます。	個々の食事量の把握をして、太りすぎにならない注意や刻み・ミキサー食など食べやすく、彩りの盛り付けに配慮して美味しく食べられるように支援している。平日の昼食は併設のデイサービスから届くが朝食と夕食は利用者の希望を聞いて献立を作り職員の手作りで提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		水分量を把握し、水分が少ない入居者は本人が一番飲めそうものを工夫し、自己摂取できない入居者には介助を行う。		

静岡県(グループホーム サンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいをし寝前は入れ歯を洗浄し管理している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけ、誘導と自立に向けて支援している。		排泄チェック表の個々の記録を把握して時間を見て何度もトイレへ誘導する対応で失禁が減ってきている。足の上下運動や廊下を歩く等の運動を日常的に行い立位、座位が保て、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動や散歩を心掛けると共に水分補給にも注意している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調、希望に合わせて入浴できるよう支援している。		ほぼ週2~3回入浴できるよう支援している。併設のデイサービスに機械浴があるが、今は利用している人はいない。水が嫌いな人やお風呂が嫌いで拒否が強い人に無理強いをしない様子を見ながら気持ちに添えるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調及び状況を見極めその人に合った支援をしている。又安眠できるよう布団干しを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示、内服の説明書を見て理解し、内服が確実に出来る様支援しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を唄ったり、カレンダーの色塗り、習字をしたり、本人の趣味をいかしたり、月に一度の行事に参加している。			



静岡県(グループホーム サンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の要望があれば散歩に出かける。又年間行事に基づいて実施している。		玄関前や駐車場で外気浴や天候を見て近くの公園に散歩に行っている。年数回はドライブで行くことがあり外に出られない人も車の中から花見を楽しんでいる。家族と一緒に通院の帰りに買い物や外食等に出かけている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の現金の所持はしていないが、事務所金庫で預かっており本人が買い物をしたい時は一緒に出掛け支払いをする。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	色々な行事のお便りを家族に送ったり、希望のある方は入居者自ら電話する。(職員見守りにて)			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは常に清潔を保つよう掃除している。日差しの取り入れ、遮光を常にブラインドを調整しています。		職員が家から持ってくる季節の生花が玄関やフロアに飾られている。フロアと別にソファが置かれ、洗面台にも長めのベンチがあり、座って口腔ケアを実施したり、好きな場所で寛いでいる。窓の下一面に大きめの棚があって荷物が整然と置かれ、動線に物を置かなくてすんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを観ている人、ソファに座り休んでいる人、話をしている人、それぞれ自由に行動してもらい安全を見守っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りノカレンダーを居室に飾っている。居室の清掃や温度調整もその都度かくにんしている。		千代紙を使った手作り表札や居室の白い壁に花模様を貼るなど職員のアイデアで明るい温かな雰囲気になっている。馴染みのリクライニングチェアや椅子を持ち込んだり、テレビや写真・生花等好きなものを飾って自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の様子が視野から離れないように全体を見渡しながら支援している。施設内の障害物は片づけ、手すりを使い行動出来るよう安全性を考慮しています。			

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティ掛川		
所在地	静岡県掛川市杉谷南1丁目15番地の13		
自己評価作成日	平成31年 1月 20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.yhkikaku.jp/">http://www.yhkikaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 31年 2月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心で安全な生活が送れるよう職員一丸となり支援するように心掛けている。職員は入居者 や家族との馴染みの関係を築き、大切にし入居者が安全で安心して暮らせるように支援している。又、地域の祭典・防災訓練の参加、ご近所での買い物、散歩時ご近所との挨拶、日々の会話を通じ、地域との交流の場を増やし入居者が地域の一員として生活出来るように支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝朝礼にて理念を唱和し共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの時、地域の参加者に対し、ホームの前で接待を行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在は行われていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会合で話された参考意見を サービス向上に目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の交流はあまりないが、運営推進会議に健康長寿課職員の出席をお願いしたり、各月で行われている市のサービス連合会に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同「身体拘束」を理解し、身体拘束を行わないケアを心掛けている。どうしても行わなければならない場合は本人と家族に説明し理解して頂いている。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での虐待は行われていないが高齢者虐待防止関連法について、学ぶ機会を持ち、より一層虐待防止について徹底して行きたい		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの事を学ぶ機会はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時ご理解されるまで充分説明を行い、同意書にサイン・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階入口の「意見箱」を設置し、何時でも意見を投函できるようにしています。運営推進会議、家族の面会時に意見を伺い職場会議に反映する様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で職員の意見や提案を反映できるよう職員の意見を受け止めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制、状況を把握し、各職員がモチベーションが上がるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会がありません。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のサービス連絡会にて交流する機会がある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	朝の挨拶から明るく、優しく対話するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事、要望等相談を受けたときは、出来る事、分かる事を伝え添うようにしたいと思っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、入居者とのコミュニケーションに努めいつも同じ態度で接している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	我が親ならばどうしたら喜び、平穩に過ごせるだろうかを念頭に置いて、対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て下さっている事を伝え、大切に思っている事も一緒に伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい方の面会、会いたいと思っている方がある事をご家族に伝えるようにしている。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席等、気の合う方同志を近い席にするなどをして、コミュニケーションを取りやすくする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の家族より相談があった時は応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の話を1人1人聞いて出来るだけ希望に そうように介護を行うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時記入して頂いた「入居者基本情報」を参考 にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体の傾き、座位が保たれていない方は、 食事・おやつ以外はソファで楽な姿勢で過 ごして頂く。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1回ミーティングを開き、スタッフの 意見交換、話し合いをしている、又ご家族に 相談したりして、入居者の暮らしやすい介護 に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	通院記録に医師の言葉・入居者連絡ノート に日々の気づきを記録する。そのノートを勤 務に就く前に目を通す。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者に目配り、気配りをし、その時の状態に合わせて外出したり、カラオケをしたりする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩・買い物時、地域の方との交流、ボランティア観劇を通じ暮らしに豊かさが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が適切な受診ができるように、個々の主治医を受診の際はスタッフが同行し、医師・家族との連携を保てるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の食事量の把握、薬、アレルギーにより食べれないもや、水分量に気をつけている。健康面で気付いた事を医師に相談しアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が安心して治療できるように家族と連絡を取っている。入院時は医師・家族と情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する同意書を家族から頂いている。医療機関・訪問看護・ご家族との連携で、状況の変化に合わせて出来る限りの支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてマニュアルを作成している。急変時・事故発生時は対応マニュアルの手順にて実施している。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春・秋と年2回施設内で防災訓練を実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対して否定的な言葉や対応をしないように1人1人に適切な言葉や対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから決めつける事なく「どうしましょうか」などと本人の思いや希望を聞くように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の話を聞くなどしてその人に合った生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を着替える時は職員と一緒に選びその人が着たいものを選ぶ。男性には髭剃りを自分でやれるよう声掛けをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と入居者が一つのテーブルに座り雑談をしながら食べる。入居者が出来る準備や片づけを職員と一緒にやる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事量の把握し、薬やアレルギーによって食べれないものや水分量に気を付けています。		



静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声かけをし出来ない方は職員が、見守り・介助する。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導する。記録に基づき声かけをし、支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を適時に行い、軽い運動や散歩も心がけて行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望・体調に合わせて入浴してもらい、入浴しない日が少なくなるように支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体調に合わせて声掛けし、居室で休んで頂いたり、ソファで休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医者の指示、薬の説明書を見て理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事を生活の中に取り入れ、楽しめるよう支援しています。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来るだけ散歩に出かける。他の外出は年間の行事計画に元づいて実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお金は事務所金庫にてお預かりしており、入居者が買い物したい時は職員と一緒に付き添っていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行事便りを各ご家庭に郵送している。又職員見守りの中で本人がTELを使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に掃除をしたり、常に清潔を保つようにしています。また花など飾ったりと季節感を出し心と和むように努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビ視聴をする人、ソファで寝ている人、居室にて休息している人など、皆自由に行動しているのでその安全をしっかり見守りしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの思いで飾られている(「写真・むいぐるみ。花」)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置している。その人に合った事をして頂き安全生活できるようにしています。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (13)	地域との協力体制に繋がる訓練を行う	夜間を想定した訓練を行う	夜間、緊急連絡網を使用した訓練をする	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。